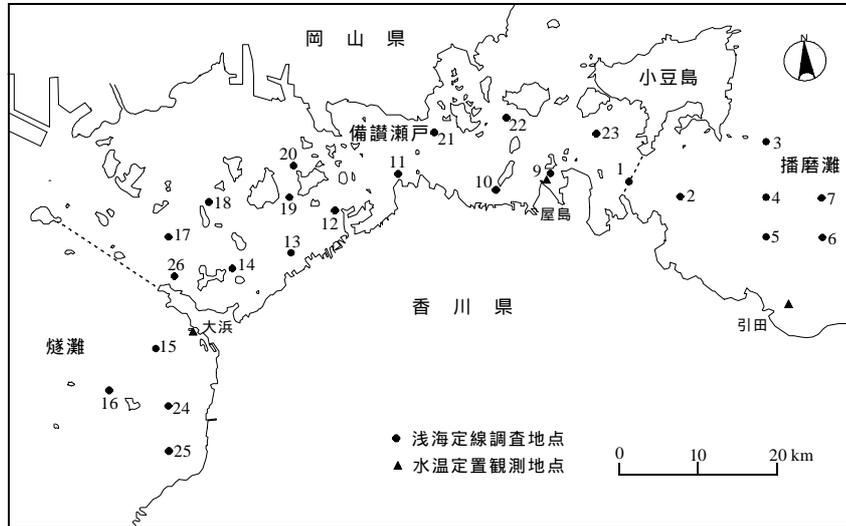


香川県漁海況速報 平成16年10月 (H16- 7号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成16年10月6日(播磨灘) 5日(備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「平年並みからかなり高め」、塩分は「かなり低めから平年並み」、透明度は「やや低めから平年並み」、溶存酸素は「著しく低めから平年並み」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	25.4	25.4	25.4	30.8	30.9	31.4	6.9	4.18	4.09
	平年値	24.9	24.8	24.7	31.6	31.6	31.8	7.0	4.53	4.15
	平年偏差	0.5	0.6	0.7	-0.8	-0.7	-0.4	-0.1	-0.35	-0.06
	状況	やや高め	やや高め	やや高め	やや低め	やや低め	平年並み	平年並み	やや低め	平年並み
備讃瀬戸	14地点平均値	25.6	25.6	25.7	29.9	29.9	30.0	2.9	3.90	3.90
	平年値	24.8	24.8	24.8	31.4	31.4	31.6	3.9	4.38	4.21
	平年偏差	0.8	0.9	0.9	-1.5	-1.5	-1.6	-1.0	-0.48	-0.31
	状況	やや高め	やや高め	かなり高め	かなり低め	かなり低め	かなり低め	やや低め	平年並み	やや低め
燧灘	4地点平均値	25.2	26.0	26.1	29.9	30.7	30.9	6.3	4.18	3.22
	平年値	25.0	24.7	24.6	31.5	31.8	31.9	7.6	4.95	4.25
	平年偏差	0.2	1.3	1.5	-1.6	-1.1	-1.0	-1.3	-0.77	-1.03
	状況	平年並み	かなり高め	かなり高め	かなり低め	やや低め	やや低め	やや低め	著しく低め	やや低め

平年偏差 = 平均値 - 平年値

平年値の算出期間 水温及び塩分：昭和47(1972)～平成13(2001)年度

透明度：昭和58(1983)～平成13(2001)年度

溶存酸素：昭和55(1980)～平成9(1997)年度

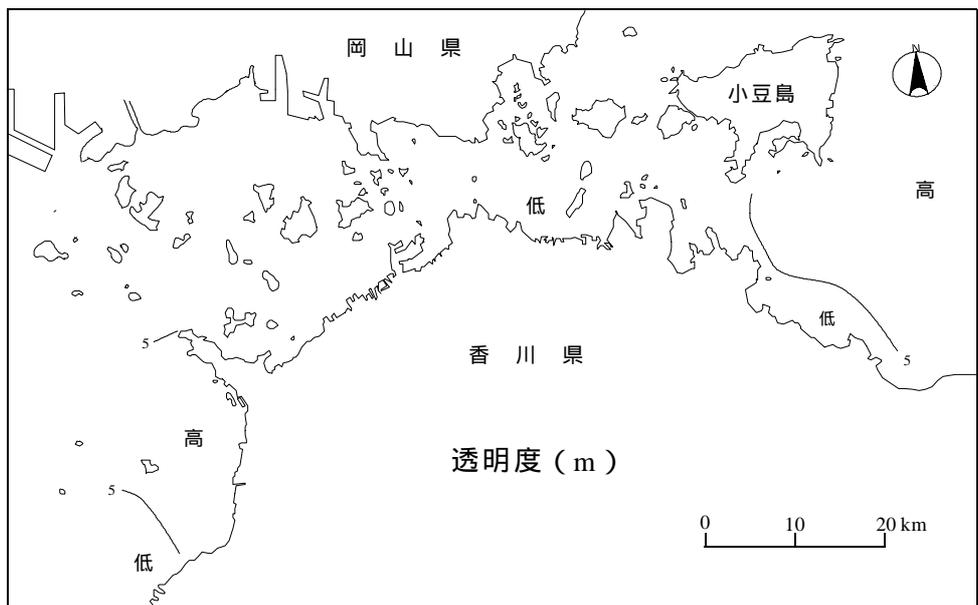
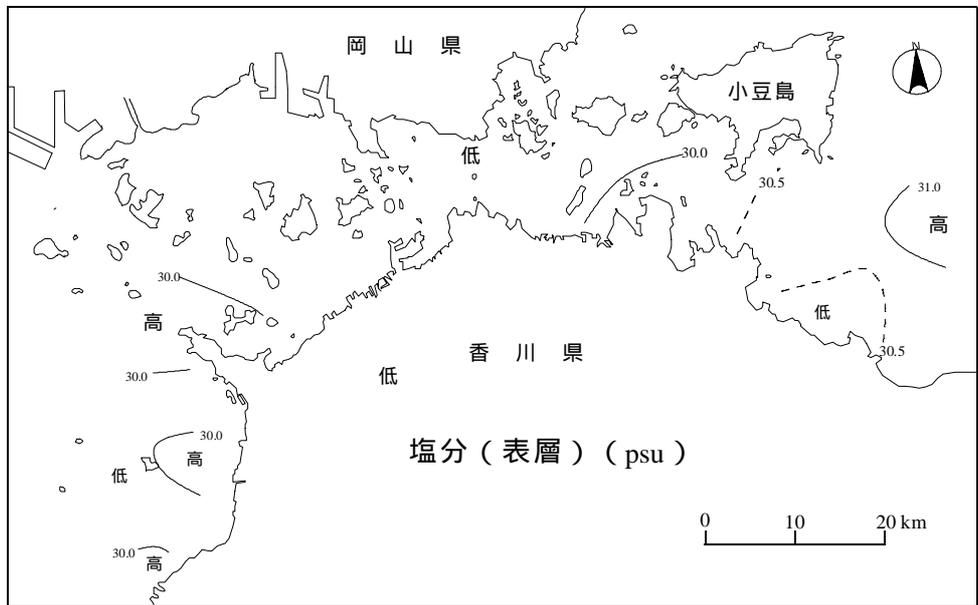
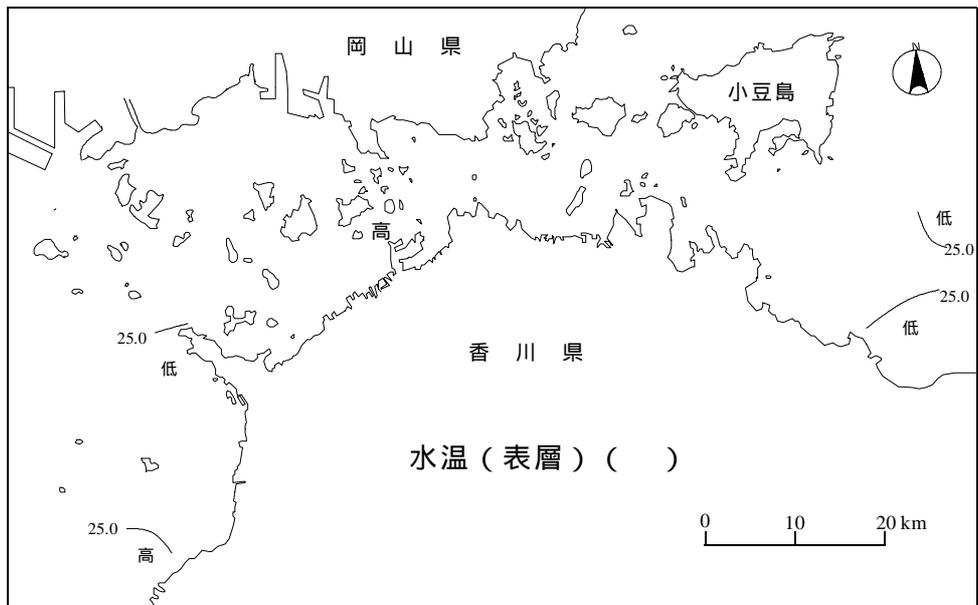
水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み 0 平年偏差 < 0.6 (: 標準偏差)

やや高め(やや低め) 0.6 平年偏差 < 1.3

かなり高め(かなり低め) 1.3 平年偏差 < 2.0

著しく高め(著しく低め) 2.0 平年偏差



2) 定置観測(水温)

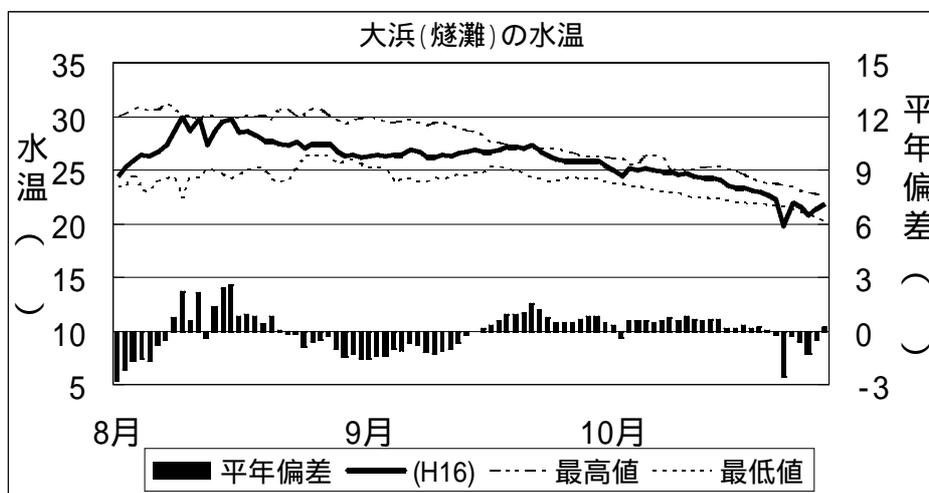
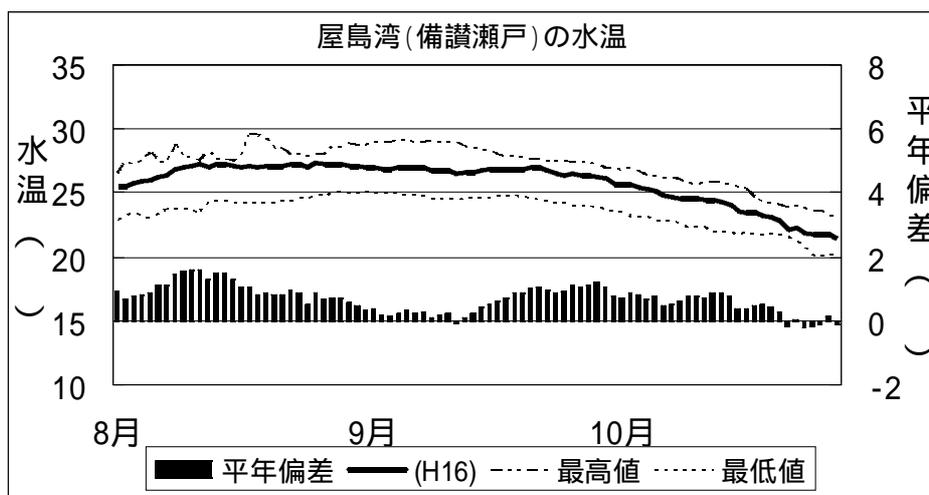
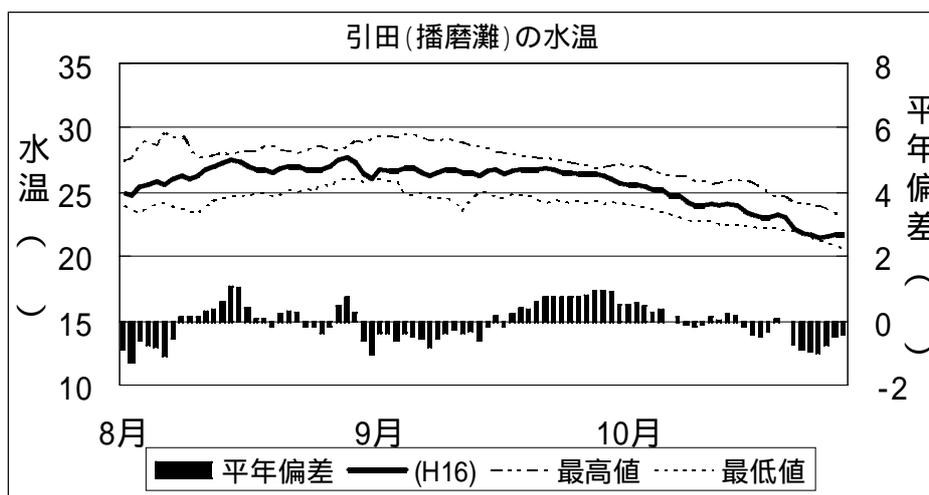
播磨灘(引田): 9月上旬は平年偏差が - 0.6 前後で、中旬から上昇し0.8 前後で推移していたが、10月に入り減少傾向で推移し中旬には - 1 弱に低下した後、上昇に転じている。

備讃瀬戸(屋島): 9月上旬は平年値を少し上回る程度、中下旬に増加傾向で推移し、10月上旬に平年偏差が1 前後で推移した後、中旬から減少傾向で推移している。

燧灘(大浜): 9月上旬は平年偏差が - 1.3 前後で、中旬から増加傾向で推移し、10月中旬まで0.8 前後で推移し、一時大きく低下した後、上昇に転じている。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成14(2002)年

屋島: 昭和50(1975)~平成14(2002)年



3) 赤潮

播磨灘：発生なし。
備讃瀬戸：発生なし。
燧灘：発生なし。

4) 卵稚仔

調査日：平成16年 10月 6日（播磨灘）、5日（備讃瀬戸、燧灘）

出現量

個（尾）/ 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.50	0.30	0.00	0.00	0.00	0.00	3.60	3.40
備讃瀬戸平均	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.10
燧灘平均	0.60	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.70
総平均	0.30	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	1.47	1.10

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	20.2%	136.4%	-	-
備讃瀬戸平均	166.7%	0.0%	-	-
燧灘平均	64.5%	90.9%	-	-
総平均	33.3%	111.1%	-	-

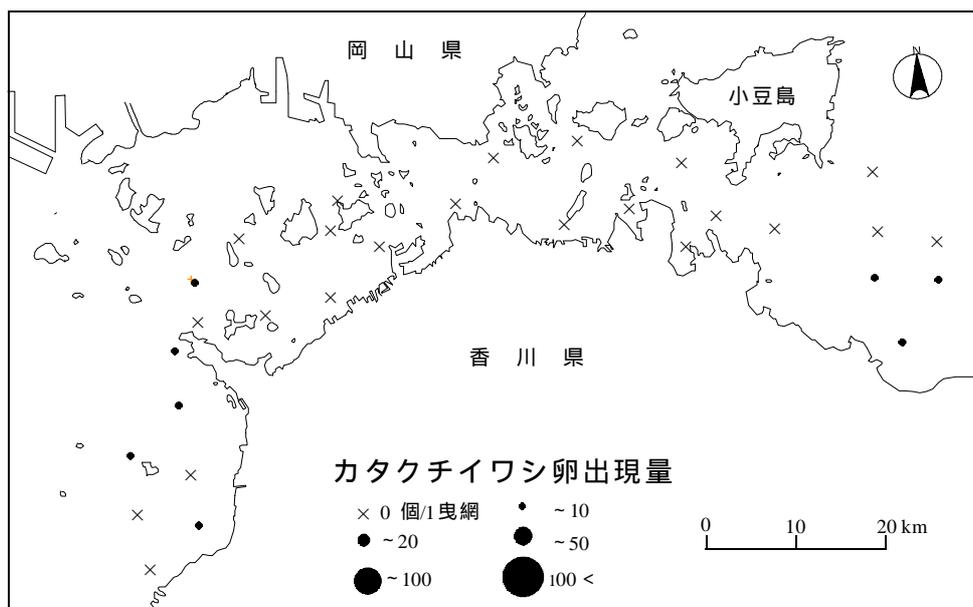
- : 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和 55（1980）～平成 15（2003）年度

マイワシ：平成 5（1993）～平成 15（2003）年度

各調査点のカタクチイワシ卵の出現量は、次のとおりである。



2. 漁況

9月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網では主にイボダイ、小型イカ、小エビ類、カマス類、ハモが漁獲されているが、マアナゴが少ない。</p> <p>ます網では主にアジ類（マアジ、マルアジ）が漁獲されている。</p> <p>建網では、ガザミ（今年生まれ）が多獲されている。</p> <p>船びき網のシラス漁は、不調で休漁状態となっている。</p> <p>サワラ流し刺し網の秋漁は資源保護のため、前年同様休漁している。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、小エビ類、クルマエビ、ガザミ、イイダコが漁獲されているが、アナゴ、マダコは少ない。</p>
燧 灘	<p>底びき網では主に、アカカマス、シロギス、マダイ（当歳）ガザミ、シャコ、コウイカ（当歳）が漁獲されている。</p> <p>いわし機船船びき網のカタクチイワシ漁は8月下旬の台風以降操業を見合わせている。</p>